

<p>助成事業細目</p>	<p>スポーツ活動推進事業</p>
<p>事業名</p>	<p>育成期ジュニアの体力特性に関する調査事業</p>
<p>実施した事業の内容 (種目・期間・場所・対象者・実施方法等)</p>	<p>[実施事業の内容]</p> <p>本事業は以下の合宿等において調査を行った。 NTCナショナルチームジュニア男子合宿 4月14日～15日(NTC)、4月21日から22日(NTC)、5月25日から27日(NTC)、6月5日(千葉県)、6月15日から17日(NTC)、7月7日から8日(NTC)、11月24日から27日(NTC)、14日から16日(NTC) ナショナルチームジュニア女子合宿 4月19日から20日(山梨)、7月14日から17日(NTC)、9月10日から11日(NTC)、9月13日から14日(9月28日から30日(NTC)、12月4日から9日(山梨)) ユニバシアードチーム合宿 1月6日から9日(NTC) 調査対象者はH24年度のナショナルチームに選抜されたジュニア選手およびユニバシアードチームの選手であった。 調査項目はフィールドテスト、ファンクショナルチェック、ラボテストで構成され、ファンクショナルチェックとフィールドテストの一部は毎回実施された。</p> <hr/> <p>事業の第三者への委任(委託等)の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>
<p>実施した事業の成果</p>	<p>調査によって得られたデータを分析することによって以下の点に関しての知見が得られた →成長段階にある選手においても継続的にトレーニングを行い調査を実施することによって体力的特性を把握することが可能であり、これによって個々の特性に応じたトレーニング処方が可能となる。 →特に生物学的に成長途上にある競技者の経過を観察することによって効果的に障害を予防しながらトレーニングを実施する事が可能となる。 →調査データの蓄積を大量に行う事により、時間や空間、場所や世代を超えた比較が出来る可能性が示唆され、このデータ蓄積を継続する必要性が示唆された。</p>
<p>実施した事業に対する評価</p>	<p>本事業は実施したナショナルチームクラスの競技者のデータを蓄積すると共に、一貫指導体制構築の中核事業として実施している西日本トレセン事業参加のブロック(都道府県)トレセンの所属競技者との並行したデータ蓄積を行う予定であったがこれが出来なかった点が反省点である。この原因は1:ブロックトレセンの測定実施がスケジュール上指定できなかった事。2:競技団体への医科学サポートとして協力を依頼していた国立スポーツ科学センターの協力が得られなかった事。が主たる要因となる。 ただし本事業によって得られるデータは極めて貴重な物であると評価されるため継続して事業の申請を行う事になった。</p>
<p>ロゴマーク等の表示方法</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> ホームページ上の表示 <input checked="" type="checkbox"/> 活動場所での掲示(看板等による) <input checked="" type="checkbox"/> 印刷物への表示 <input type="checkbox"/> 取得物品への表示 <input type="checkbox"/> その他()</p>
<p>事業の実施状況及び実施結果並びに助成金の用途に関する情報の公開方法</p>	<p>本事業は参加した選手の所属先となる各倶楽部の指導者、および各都道府県テニス協会、各地域テニス協会に対して毎回の報告書を提出することにより周知を行っている。また代表的なデータに関しては個人が特定される事の無い形に加工を行い、日本テニス協会が主催する指導者養成講習会や研修会等に置いて講習内容の基礎となるデータとして反映された形で提供が行われている</p>
<p>備考</p>	